

[調査会 NEWS 743](21.1.23)

※先ほどのニュース 742 号でタイトルが理事会報告（1）となっていましたが、この 743 号の内容は記者会見向けの発表のため「理事会報告（2）」とはしませんでした。

本日の記者会見で以下の通り発表しました。

■特定失踪者 0 番台リスト（第 39 次）

永本 憲子（ながもと のりこ）さん

性別：女

生年月日：昭和 39 年 10 月 2 日

失踪年月日：昭和 56 年 5 月 10 日

当時の年齢：16 歳

当時の身分：高校 2 年生

失踪場所：高知県宿毛市の片島公民館前バス停から

身体的特徴：身長 160cm 眼鏡使用

失踪の経緯：

5 月 10 日（母の日）の午前 10 時 30 分頃、自宅近くの片島公民館前のバス停で、本人の伯父が見かけて声をかけたところ「もうすぐバスが来るから、宿毛に行く」と言っていた。所持金は、現金 2 万円と、郵便貯金通帳（残高約 5 万円）のようだったが、その通帳から現金を下ろした形跡はなかった。

濱端俊和（はまばた としかず）さん

性別：男

生年月日：昭和 34 年 9 月 10 日

失踪年月日：昭和 58 年 4 月 10 日

当時の年齢：23 歳

当時の身分：会社員（原子力発電所の定修工事）

失踪場所：福井県敦賀市・敦賀駅前

身体的特徴（当時）：身長 155 センチ、体重 50 キロ 左顎下にアザ

失踪の経緯：

沖縄県出身で地元の会社から横浜の建設会社に研修生として派遣されていた。昭和 58 年 3 月末に大飯原発の定修工事が完了し、美浜原発の定修工事に転出するため、3 月 30 日に横浜の本社に到着、工事の機材を積み込んで 4 月 2 日に美浜に向け出発、3 日着。4 日から美浜原発定修工事作業準備。9 日同じ沖縄出身の同僚と日帰りアメ横まで洋服を買いに行く。10 日その同僚をパチンコに誘うが同僚が行かなかったので一人でタクシーを呼び当時宿泊していた敦賀市内の寮を出たまま失踪（タクシーは敦賀駅前で降りたことが確認されている）。ジャンパー姿で出掛けており、免許証、貯金通帳、保険証などの荷物すべて置いたまま。広島に友人に預けた車があったがそれもそのまま。

10 月 23 日 Y という女性から沖縄の実家に電話があり、9 月末にご主人が行方不明になった。行方が分からないかとの問い合わせがあった。濱端さんとは神奈川県内にある自動車工場で知り合ったとのこと（濱端さんは昭和 55 年 4 月から 10 月までここに季節工として勤務）。お母さんが電話を受け、息子も行方不明になっていると伝え、電話番号を聞いたが教えてもらえなかったという。

■ しおかぜの近況報告

昨年10月末より変更した周波数を、本年1月13日より非公開で周波数変更を行った。北朝鮮による妨害電波は、11月初めより発射されているが、ソウルなど各地域のモニタリングにより、周波数変更は行わずに放送を続けてきた。

冬期が深まるにつれて伝搬状況や妨害電波の変化、先日収録が行われた泉田新潟県知事、平井鳥取県知事の放送番組を控え、13日より周波数変更を行うこととした。その後21日朝の放送の中で数分間、妨害音を確認する報告があり、翌22日の朝の放送へ直前から終了直後まで激しい妨害電波が始まった。同日総務省へ連絡、監視部門でも北朝鮮方面からの妨害電波を確認しており、即日ITU（国際電気通信連合）へ通報をした。

北朝鮮がどのような情報収集をして周波数を特定しているのかは不明だが、最近の中では新周波数を探し当てるまでに時間がかかったと思われる点では、それだけ猫の目作戦が成功していると判断できる。

また、昨夜22日夜の放送にも凄まじい妨害電波が確認され、23日、総務省監視部門も同様の認識をしている事から、関係方面と調整の上ITUへの通報を行うこととなる。こちらとしては今後も監視を続け、状況を判断しながら対応を検討するものである。連日モニターをし、報告をしてくださる皆様には心より感謝を申し上げる次第である。

○ 「知事の会」メッセージ収録について

1月24日夜の放送から、再度泉田・平井両知事のメッセージを紹介する朝鮮語ニュース、日本語ニュース番組を再放送するが、他の知事の収録についても対応を進める予定である（泉田知事も収録の際には、他の知事にも声をかけていただけるとのことだった）。

私たちも全国の知事がぜひ「しおかぜ」を通じてメッセージをお送りいただきたいと考えている。北朝鮮で聴いている拉致被害者には、力強いメッセージ

- ・ 高敬美・剛姉弟の拉致認定を求める。
- ・ 現状の政府認定基準の見直しを求める。
- ・ 拉致対策本部に情報収集機能に関わる活動の比重を大幅に高めること及び拉致以外の北朝鮮人権問題も管轄することを求める。
- ・ 拉致議連の中に北朝鮮人権問題を担当する部会を設けるよう求める
- ・ 海上保安庁に海上における失踪事案の調査に関し直接の要請を行う
- ・ 防衛省に対し北朝鮮の地理情報集積、邦人保護次元の拉致被害者への対応を求める。
- ・ 自治体レベルでの拉致問題に関する啓発活動の推進を求める。
- ・ 知事の会に続いて市町村長の会の結成を求める。
- ・ 本年は北朝鮮への帰国運動開始50周年であり、「アジア人権人道学会」結成ともあわせ他の北朝鮮人権問題関連団体との連携を強化する。
- ・ 脱北者からの北朝鮮情報の聞き取りを独自に行うとともに、政府に対しても積極的にを行うよう求める。
- ・ すでに古川了子さんの拉致認定を求める行政訴訟を行ったが、今後あらためて政府の不作為を問う訴訟を行うことも視野に置いて法的措置の検討を行う。

以上

<平成19年度決算>

<前年度繰越金> -78053

<収入の部>

寄付金 22534712 (家族会からの、調査協力金を含む)

会費 370000 (しおかぜネットワーク会費)

事業収入 4789696 (グッズ販売)

負担金 10000 (家族収録の負担金 1件)

雑収入 334961 (ポスター協力金、利子、他)

収入合計 28039369

<支出の部>

事業費放送料 5820810 (KDDI)

器材作製費 1741825 (グッズ作製費)

委託金 6400000 (しおかぜ編集委託)

小計 13962635

総務委託金 270000 (社会保険労務士、税理士)

会議費 302635

切手 737165

交通費 903658 (定期券、タクシー他)

人件費 6361101 (専従者2名、給与)

租税公課 465891 (税金、雇用保険)

賃借料 705075 (3階事務所、電話機リース-7月まで-)

通信費 79458 (インターネット)

電気 250712

電話 508954 (電話機リース代を含む-7月より-)

備品購入 21230

雑費 567820

小計 11173699

調査委託金 200000 (調査委託)

交通費 577717 (調査に要した交通費、宿泊費)

資料購入費 15000

小計 792717

支出合計 25929051

<翌年度繰越金> 2032265

<役員の追加>

理事の追加 水城四郎 (福岡市会議員)

■調査会役員の参加する講演会等の予定 (公開の拉致問題に関するイベントのみ)

★2月9日(月) 13:30 「拉致問題講演会」(徳島県主催)

●徳島県郷土文化会館(徳島駅徒歩10分)

●副代表真鍋が参加

●問い合わせ: 徳島県総務課 (088-621-2027)

★2月15日(日) 14:00 「特定失踪者寺島佐津子さんの失踪の真相を究明する集い」(救う会神奈川主催)

●藤沢産業センター(JR藤沢駅北口より徒歩5分・藤沢郵便局隣り)

●常務理事杉野が参加

●問い合わせ: 090(9816)2187 又は sukukaikanagawa@hotmail.com

★2月22日(日) 13:00 「人権フェスティバル」(小諸市人権センター主催)

●小諸市人権センター(徳島駅徒歩10分)

●代表荒木が参加

●問い合わせ: 小諸市人権センター (0267-23-5521)

★3月28日(土) 13:00 「北朝鮮による拉致・人権問題を考える神奈川県

救う会石川

救う会いばらき

救う会愛媛

救う会大分

救う会神奈川

救う会金沢

救う会岐阜

「救う会群馬」群馬ボランティアの会

救う会高知

救う会埼玉東部の会

救う会堺

救う会千葉

救う会徳島

救う会富山

救う会長野

救う会奈良

救う会兵庫

救う会福岡

救う会ふくしま

救う会三重

救う会宮城

救う会宮崎

救う会山形

園田一・トシ子夫妻の家族を支援する会

CHOSUN BAND RESEARCH

つくば、しおかぜ会

電脳補完録

東京ブルーリボンの会

特定失踪者問題調査会

長崎拉致被害者救出ネットワーク

中村三奈子さんをさがす会

日本青少年

浜松ブルーリボンの会
東アジアネットワーク
東アジアネットワーク広島
ブルーリボン柏崎
古川了子さんの救出を支援する会
法律家の会
民社人権会議
山形ビジョンの会
山本美保さんの家族を支援する会
予備役ブルーリボンの会
拉致事案全般研究会
拉致問題解決を目指す会
嶺南地区特定失踪者の真相究明を願う会
ワシントン DC らち連絡会

■記者会見の中継について

既にお知らせした 23 日の定例記者会見はいつもと同じように(株)NetLive のご協力によりインターネットでの生中継を行います。当日 14:00 から、同社のホームページにてご覧下さい。アドレスは以下の通りです。

<http://www.netlive.ne.jp/>

■調査会役員の参加する講演会等の予定（公開の拉致問題に関するイベントのみ）

★平成 21 年 1 月 18 日(日) 14:00 北朝鮮による人権侵害について考える県民集会（救う会徳島主催）

●阿南市文化会館夢ホール（阿南市富岡町西池田 135-1）

●代表荒木が参加

●問い合わせ 090-5141-1995（救う会徳島事務局）

泉田知事 14:40～15:00 (本番収録時間は10分程度を予定)

※ プレスの受付は、14:00から第6松屋ビル3Fで行います。

※ 収録開始時間については前後する場合があります。

場 所 調査会3F しおかぜスタジオ 文京区後楽2-3-8 第6松屋ビル3F

内 容 「日本人拉致に関して北朝鮮当局に申し入れる」(泉田知事)

北朝鮮政府へ向けたメッセージなど

拉致被害者へのメッセージ

● スタジオが非常に狭いため、収録風景はムービー・スチール各1台のみ、撮影はリハーサル時限定とさせていただきます。映像・写真につきましては担当社から各社へ配布をお願いいたします。

※収録中の音声はスタジオ外で聞くことが可能です。

● ぶら下がりについては各収録後、スタジオ外の室内にて行う予定にしております。ぶら下がり取材時には、ムービー・スチールの位置は、受付先着順とさせていただきますのでご了承下さい。

● 取材は事前申込み制としますので、希望の場合は、急で申し訳ありませんが特定失踪者問題調査会 村尾建児まで、本日(1月9日)17:00までにご連絡願います。

■調査会役員の参加する講演会等の予定(公開の拉致問題に関するイベントのみ)

★平成21年1月18日(日)14:00 北朝鮮による人権侵害について考える県民集会(救う会徳島主催)

●阿南市文化会館夢ホール(阿南市富岡町西池田135-1)

●代表荒木が参加

●問い合わせ 090-5141-1995(救う会徳島事務局)

★2月15日(日)14:00 「特定失踪者寺島佐津子さんの失踪の真相を究明す

[調査会 NEWS 737](21.1.8)

■記者会見のお知らせ

報道関係各位

調査会の1月の定例記者会見は下記の通り行います。報道関係の皆様にはご多忙な中申し訳ありませんがご対応賜りますようお願い申し上げます。

日時 1月23日(金) 14:00～

場所 第6松屋ビル3F(調査会事務所の下)

内容 0番台リスト発表(若干名)

理事会(同日午前開催)の報告

その他

■戦略情報研究所講演会

今回の戦略情報研究所講演会は下記の通り開催されます。

1、日程:2月6日(金)18:30～20:30

2、場所:UIゼンセン会館2階会議室(千代田区九段南4-8-16 tel03-3288-3549)

※市ヶ谷駅下車3分 日本棋院斜向い (地図は下記をご覧ください)。

<http://www.uizensen.or.jp/about/index.html>

3、講師:矢野義昭氏(元陸将補)

4、テーマ:「アメリカの核の傘は機能するか?」

日にもあったのですが、そのときは「報告があるならこちらに持ってきてもらいたい」と断りました。この日は「全員の消息を伝える」と言われたので半信半疑ではありましたが承諾したのです。場所は外務省の麻布飯倉公館とのことでした。

確かはとバスだったと思いますが、貸し切りバスが 1 台、議員会館前に着いたのは 15 時でした。「随分手回しがいいんだな」と感じました。前から用意がされていたということでしょう。

飯倉公館は外務省のゲストハウスで賓客の接待などに使われる豪華な建物です。地下の貯蔵庫に 8000 本のワインがあることでも有名です。

私たちは広いホールのようなところにしばらく待たされてから一家族ずつ別室に通されました。最初は横田めぐみさんのご両親と双子の弟さんが呼ばれました。佐藤会長と私も同席しました。伝えたのは植竹繁雄外務副大臣。「亡くなっています」という言葉を聞いたとき、文字通り頭が真っ白になりました。自分がやっていたことでめぐみさんが殺されたのではないか、自分は人殺しをしてしまったのではないか、そんな思いにただ呆然とするだけでした。あのときの情景はおそらく死ぬまで忘れないと思います。同様にして有本さん・市川さん・増元さんのご家族に「死亡」が伝えられ、蓮池さん・奥土さん・地村さん・浜本さんのご家族には一括して「生存」が伝えられました。

このあたりの詳細は私の編著『拉致救出運動の 2000 日』（草思社刊）にも書きましたし、同書と横田早紀江さんの著書『めぐみ、お母さんがきっと助けてあげる』（草思社刊）を原作にしたテレビ東京制作のドラマ（平成 15 年 5 月放送『めぐみ、お母さんがきっと助けてあげる』）でも描かれていますのでここでは省略します。ともかくこのとき、政府は単に北朝鮮が「死亡した」と言っただけの話を「確認した」こととして家族に伝えたのです。

同行者も救う会は佐藤会長と私（当時事務局長）の 2 人だけで、拉致議連が当時会長だった石破茂議員、副会長だった米田建三議員、事務局長だった平沢勝栄議員の 3 人に限られ、幹事長である西村眞悟議員や事務局次長の松原仁議

員ら野党議員は排除されました。

翌日、外務省に行って糺したところ、この情報は何の確認もせずに単に北朝鮮の情報をそのまま伝えただけだということが分かりました。また、9月19日付の朝日新聞は北朝鮮側が日本側に伝えた「死亡」の日付をすっぱ抜きました。実は17日朝、北朝鮮から渡された情報に「死亡」の日付が記されていたのです。しかし飯倉公館では家族が「何時死んだのですか」と聞くと、この宣告をした福田康夫官房長官と植竹繁雄外務副大臣はどちらも「分かりません」と言って答えませんでした。

その日付は例えば平成2(1990)年に目撃証言のある市川修一さんの「死亡」が拉致された翌年の昭和54(1979)年9月4日であるなど不自然なものが多く、これを見たら私たちも家族も即座に「この情報は嘘だ」と言ったに違いないものでした。「分かりません」というのは「死んだ」という情報を確定情報にするための策動だったのです。しかも、私たちが飯倉公館に隔離されてマスコミとの接触が全くできない状態で、平壤からは何人生存、何人死亡という情報を流し始めました。情報に飢えていた受け手(国民)が否定をする人もいない中でこの情報を確定として受け止めても仕方ないでしょう。

そのような周到な準備があったために、9月17日に「8人死亡」で日本中を駆けめぐった情報は容易にひっくり返せませんでした。まさか政府がかくも重大なことで嘘をつくとは思ってもいなかったこちらが甘かったとも言えるのですが、これはまさに日本政府が拉致被害者家族と支援者、もっとはっきり言えば国民にしかけた情報戦でした。

もし家族がマスコミの前にいるところで、しかも「北朝鮮がこう言っています」という情報を、「命日」まで含めて伝えられたらどうでしょう。もちろんショックには違いありませんが、「何も確認できていないし、この間まで『拉致はでっち上げ』と言っていたのだから信用できない」ということになったはずです。マスコミも少なくとも「死亡」を確認された事実としては流さなかったでしょう。

当時の政府がやろうとしていたのは「死亡」を既成事実化し、「生存者」の家族と「死亡」を伝えられた家族を分断することで救出運動を抑え込み、「あとは全て日朝国交交渉の中で話し合う」ということにしてしまうことでした。こうすれば日朝国交正常化にブレーキを掛けるものは誰もいなくなります。

これが日本政府が日本国民に対して行ったことです。私は後で振り返って、国家権力の恐ろしさに背筋の凍る思いでした。そしてそれは同時に、自分が政府に対してどう向き合わなければならないかを考えるきっかけを与えてくれました。

私は救出運動の中でこんなことを何度か体験してきました。今後また機会を見て書いていきたいと思います。

■調査会役員の参加する講演会等の予定（公開の拉致問題に関するイベントのみ）

★平成 21 年 1 月 18 日(日) 14:00 北朝鮮による人権侵害について考える県民集会（救う会徳島主催）

●阿南市文化会館夢ホール（阿南市富岡町西池田 135-1）

●代表荒木が参加

●問い合わせ 090-5141-1995（救う会徳島事務局）

★2 月 15 日（日）14:00 「特定失踪者寺島佐津子さんの失踪の真相を究明する集い」（救う会神奈川主催）

●藤沢産業センター（JR 藤沢駅北口より徒歩 5 分・藤沢郵便局隣り）

●常務理事杉野が参加

●問い合わせ：090(9816)2187 又は sukukaikanagawa@hotmail.com

★3 月 28 日（土）13:00 「北朝鮮による拉致・人権問題を考える神奈川県民集会」

●横浜情報文化センター 情文ホール（みなとみらい線「日本大通り駅」 情文センター口 0 分）

<http://www.idec.or.jp/shisetsu/s6-jouhou.php4?f=jouhou/6-map.htm>

私はこの質問を受けたときに「少なくとも 100 人以上、おそらくそれより遙かに多い数」と答えています。

具体的にどれだけ拉致されたかについては私たちのみならず、警察などの政府機関がどんなに一所懸命やっても正確な数は分からないはずです。それにはおよそ二つの理由があります。

1、身寄りのない人を狙った拉致

政府認定者で言えば久米裕さん、田中実さん、原勲晁さんは身寄りがないか、それに近い状態の人を狙った拉致です。この場合は家族が立ち上がることはないので、単なる失踪として処理されてしまうことが大部分です。調査会の特定失踪者リストでも、公開の人はほぼ全てがご家族からの届け出によるもので、この点は警察の持っているリストも同様だと思います。久米さんらは犯人が捕まったりして明らかになったケースであり、成功していればほとんど分からないはずですが。

2、グレーゾーン

たとえば、「よど号の妻」にしても、大部分は北朝鮮シンパであり、自らの意志で北朝鮮に行ったわけですが、そのときはよど号犯と結婚して定住するとは思っていませんでした。帰れないと分かったときに彼女たちが「帰して欲しい」と言えばこれも一種の拉致にあたるでしょう。結果的には北朝鮮の意に沿った活動をし続けているために拉致ではなくなっているということです。

もっとも、拉致されて工作活動に従事させられた人は少なくないはずです。拉致被害者が例えば日本に戻って工作活動に従事する場合、北朝鮮当局は自国の工作員に対して行うと同様、家族を人質として北朝鮮に残させるはずですが。もちろん、裏切れば本人の命も狙われます。したがってこれは特別の場合を除き一種の「緊急避難」として免責されるべきでしょう。

話を戻すと自分の意志で、特に北朝鮮の体制に一定の共感をもって入った人

の場合はどこまでが拉致か、はっきりしない場合がかなりあると思います。また、前から言われていることですが、多重債務者を北朝鮮に連れて行ったり（韓国人でも何らかの理由で国内にいられなくなった人を北朝鮮に連れて行ったケースはあるそうです）したケースはどうなるのかとか、かなり難しい問題です。

以上のような理由から、はっきりした数はすべて蓋を開くまで分からず、蓋を開いてもどこまでを拉致とするのかはかなり難しい問題と言えます。これに加えて在日朝鮮人の拉致被害者も帰国運動で帰った人と別に相当数いると思われる、昭和 48 年の金大中事件と同様に考えれば、外国籍であっても日本国内からの拉致ですから主権侵害という意味では同様です。

全体の数が分からない以上、「完全解決」（それも、本来は目標とすべき原状回復を放棄してのことですが）は北朝鮮の体制を変える以外に実現しないことがこれらから明らかになると思います。

■調査会役員の参加する講演会等の予定（公開の拉致問題に関するイベントのみ）

★平成 21 年 1 月 18 日(日) 14:00 北朝鮮による人権侵害について考える県民集会（救う会徳島主催）

●阿南市文化会館夢ホール（阿南市富岡町西池田 135-1）

●代表荒木が参加

●問い合わせ 090-5141-1995（救う会徳島事務局）

★2 月 15 日（日）14:00 「特定失踪者寺島佐津子さんの失踪の真相を究明する集い」（救う会神奈川主催）

●藤沢産業センター（JR 藤沢駅北口より徒歩 5 分・藤沢郵便局隣り）

●常務理事杉野が参加

●問い合わせ：090(9816)2187 又は sukukaikanagawa@hotmail.com

★3 月 28 日（土）13:00 「北朝鮮による拉致・人権問題を考える神奈川県民集会」

「北朝鮮はいつ頃拉致を行ったのでしょうか」という質問は「なぜ拉致をしたのか」と同じくらいよく聞かれます（いわゆる FAQ というものなのでしょうか）。

この本当の答えは北朝鮮の体制が変わり、私たちが自由に北朝鮮の中に入り、北朝鮮にいる拉致被害者すべてが自分が拉致されたことを語れるようになるまでは分かりません。しかし、いくつかの事例からある程度の推測をすることは可能です。

首相官邸のホームページには「1970 年頃から 80 年頃にかけて、北朝鮮による日本人拉致が多発しました」と書かれています。しばらく前まで政府の文書には「1970 年代後半から 1980 年代前半に起きた」といった趣旨の書き方がされていたように記憶しています。しばらく前ですが、1980 年代半ばにおきた拉致未遂と思われる事件の被害者が政府機関の人に相談したところ「ああ、それは時期が違うから」と一蹴されたこともあったそうです。残念ながら政府にはまだこの認識が完全に抜けているとは言えません（現在の表現は 1970 年頃から 80 年頃以外に行われていないとはされていないので、しっかり逃げは打ってありますが）。

しかし、政府は認定していないものの、昭和 38（1963）年の、いわゆる寺越事件は、被害者の一人寺越武志さんが北朝鮮にいることから拉致は確実です。これはいわゆる「遭遇拉致」と言われるもので、北朝鮮の工作船と漁船が出会ってしまったことによって行われたものです。発覚を恐れたなら殺害してしまえばよいのであって（実際最年長の寺越昭二さんは殺害されたという話もあります）、能登から清津まで連れて帰るということは、必要があれば「拉致してくる」という選択肢が作戦計画の中にあっただけに他なりません。遭遇によって行われた事件ですからこのときだけということはありません。遭遇によって行われた事件ですからこのときだけということはありません。遭遇によって行われた事件ですからこのときだけということはありません。遭遇によって行われた事件ですからこのときだけということはありません。

調査会の 1000 番台リスト（拉致の可能性の高い失踪者）では最も古い事件が昭和 28（1953）年の徳永陽一郎さん、最も新しい事件が平成 10（1998）年の林雅俊さんです。0 番台リスト（拉致の可能性が完全には排除できない失踪）で言えば昭和 23（1948）年の平本和丸さんが最も古く、平成 16（2004）年の

小山修司さんが最も新しい失踪です。非公開の方の中にはそれより新しい失踪も入っています。

もちろん、今の時点で平本さんや小山さんの失踪が拉致だと言えるわけではありません。しかし、ニュースの 730 号に書いたように拉致が北朝鮮にとって「通常」であると考えればそのやり方がどんなものであれ（騙して入国させて返さないものも含め）日本からの解放（昭和 20 年）以後、スターリンに指導者として指名された金日成の権力が確立してから遠くない時期に始まり、そして今でも続いていると考えた方が自然だと思います。

拉致をしてきた北朝鮮当局はもちろんですが、されてきた日本の政府が長年それを隠蔽してきたこと、そのような主権侵害に対する措置を怠ってきたことを考えると今後も拉致が行われる可能性は十分に存在します。私たちは自らの安全に対してもう一度しっかりと考え直す必要があるのではないのでしょうか。

■調査会役員の参加する講演会等の予定（公開の拉致問題に関するイベントのみ）

★平成 21 年 1 月 18 日(日) 14:00 北朝鮮による人権侵害について考える県民集会（救う会徳島主催）

●阿南市文化会館夢ホール（阿南市富岡町西池田 135-1）

●代表荒木が参加

●問い合わせ 090-5141-1995（救う会徳島事務局）

★2 月 15 日（日）14:00 「特定失踪者寺島佐津子さんの失踪の真相を究明する集い」（救う会神奈川主催）

●藤沢産業センター（JR 藤沢駅北口より徒歩 5 分・藤沢郵便局隣り）

●常務理事杉野が参加

●問い合わせ：090(9816)2187 又は sukukaikanagawa@hotmail.com

★3 月 28 日（土）13:00 「北朝鮮による拉致・人権問題を考える神奈川県民集会」

げます。

平成 21 年元旦

特定失踪者問題調査会

代表 荒木和博

他役員一同

■ごあいさつ

荒木和博

色々ご心配をおかけしましたが、北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」はお陰様で当分の間は現状の放送を維持できる状況になりました。現在は人権週間の特別番組及び新年の特別番組を放送していますが、編集等の作業を一人でやっている村尾理事が年末体調を崩しながら何とか放送にこぎ着けたものです。日本国内でもお聞きになれる方はぜひ聞いてみて下さい。また、ご支援いただいている皆様、電波を送って下さっている KDDI 八俣送信所の皆様を初めとする関係者の皆様に心より御礼申し上げる次第です。

また、「しおかぜプロジェクト」は短波放送だけではなく、ビラを北朝鮮に送る「バルーンプロジェクト」と北朝鮮からの情報収集なども重要な活動です。バルーンプロジェクトはまた新たなビラを作成し、韓国の NGO、基督北韓人連合のご協力をいただいて北朝鮮に送り続けます。情報収集については現在こうしているということの報告はできませんが、明らかにできることは定例記者会見などを通じて逐次お知らせして参ります。最近、私たち自身にとっては当然と感じていることでも実際には多くの方がご存じないことが意外とあることを実感しており、繰り返し情報の提供を行っていくことにも努力して参る所存です。

ところで、年末何人かのご家族からお手紙等をいただきましたが、そこから感じたことはこれまで以上に強い切実さでした。あらためて「時間がない」と

いうことを実感しています。今の構造、今の常識のままではいけないということを感じている次第です。北朝鮮の地では今も極寒の中で凍えている人々があります。そしてその地に私たちの同胞がいます。思想信条を超えてこの状況を変えていかなければならないと確信しています。

私自身はかつて「平成 18 年末までに拉致問題を解決する。それができなければ責任を取る」と言ってきました。すでにそれから 2 年が過ぎてしまいました。まだ責任を取らせていただく機会には恵まれません、あらためてこの言葉を思い返し、新年の活動に臨む所存です。今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

■調査会役員の参加する講演会等の予定（公開の拉致問題に関するイベントのみ）

★平成 21 年 1 月 18 日(日) 14:00 北朝鮮による人権侵害について考える県民集会（救う会徳島主催）

●阿南市文化会館夢ホール（阿南市富岡町西池田 135-1）

●代表荒木が参加

●問い合わせ 090-5141-1995（救う会徳島事務局）

★2 月 1 5 日（日）14:00 「特定失踪者寺島佐津子さんの失踪の真相を究明する集い」（救う会神奈川主催）

●藤沢産業センター（JR 藤沢駅北口より徒歩 5 分・藤沢郵便局隣り）

●常務理事杉野が参加

●問い合わせ：090（9816）2187 又は sukukaikanagawa@hotmail.com

★3 月 28 日（土）13:00 「北朝鮮による拉致・人権問題を考える神奈川県民集会」

●横浜情報文化センター 情文ホール（みなとみらい線「日本大通り駅」 情文センター口 0 分）

<http://www.idec.or.jp/shisetsu/s6-jouhou.php4?f=jouhou/6-map.htm>

●代表荒木が参加

